

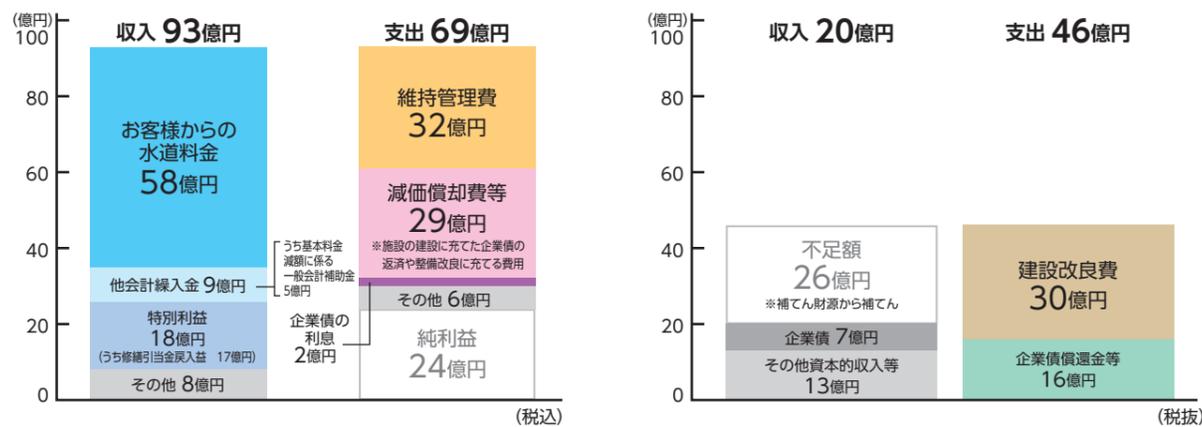
第3章

上下水道事業の経営状況

01 令和3年度決算の状況

水道事業、下水道事業の令和3年度決算の状況をご紹介します。本章をご理解いただくために必要となる公営企業会計に関する知識については、上下水道局ホームページで公表している「よくわかる決算書」をご覧ください。

水道事業



収益的収支

収入は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う市民生活及び経済活動を支援するために水道料金基本料金の減額を実施しましたが、一般会計からの全額補助により、収益への影響はありませんでした。一方、使用が見込まれない修繕引当金を今後の投資事業の財源として活用するために取り崩したことに伴う特別利益の増などにより、全体としては前年度決算額を22億円上回る93億円となりました。

支出は検針・受付・収納等に係る業務の包括委託化に伴う維持管理費の増加などにより前年度決算額を6,000万円上回る69億円となりました。その結果、当年度純利益は22億円増益となる24億円となりましたが、修繕引当金の取崩しに係る特別利益など特別収支を除く経常収支では、前年度から4億円増益となる6億円の経常利益となりました。

資本的収支

支出は地震等の被災時に優先的な給水が必要となる「救急病院」や「広域避難場所」などの重要給水施設への水道管路耐震化工事や老朽化した水道施設の更新工事などを行い、全体としては前年度決算額より2億円少ない46億円となりました。

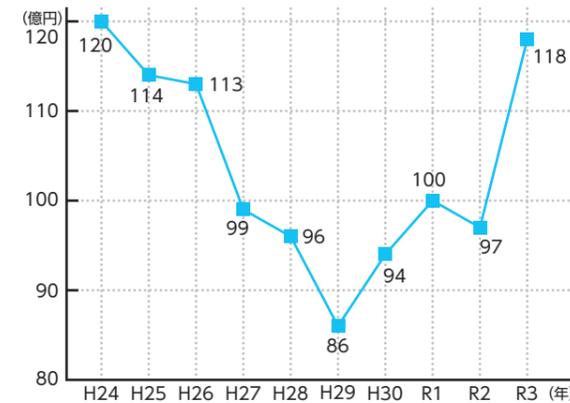
一方、収入は工事負担金の増などにより前年度決算額を700万円上回る20億円となりました。

補てん財源

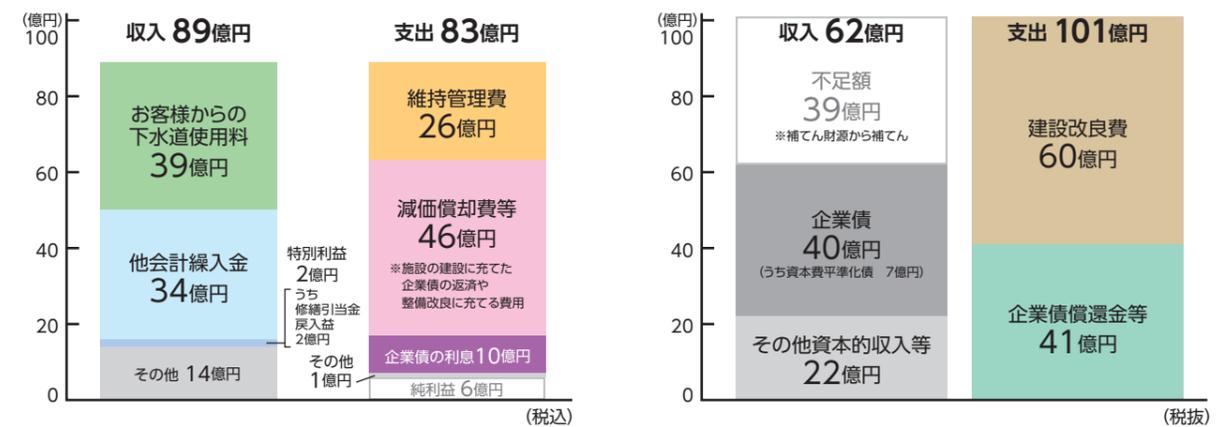
資本的収入額が資本的支出額に対し不足する26億円は、建設改良積立金や過年度分損益勘定留保資金などで補てんしました。

補てん財源の残高については、修繕引当金の取崩しに係る特別利益の増等に伴い、前年度より21億円の増となりました。

補てん財源については、老朽化した水道施設の更新や水道管路の耐震化、基幹管路網の再構築による上水道全体の強靱化を進めるための財源として活用してまいります。



下水道事業



収益的収支

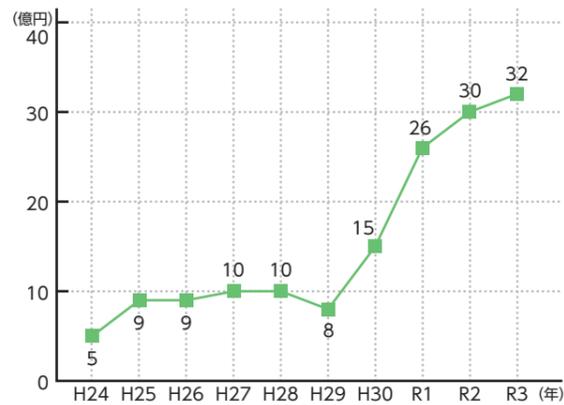
収入は修繕引当金の取崩しに係る特別利益の増などがありましたが、下水道使用料や他会計からの繰入金の減などにより全体としては前年度決算額を6,000万円下回る89億円となりました。

一方、支出は減価償却費の増加などにより前年度決算額を2,000万円上回る83億円となりました。その結果、当年度純利益は8,000万円減益となる6億円となりました。

資本的収支

支出は汚水整備として約21ヘクタールの整備や雨水整備として六名雨水ポンプ場の築造工事(H29～R4年度の継続事業)に約9億円、大門雨水ポンプ場の改築工事(R2～R4年度の継続事業)に約2億円などの整備を行い、全体としては前年度決算額より4億円多い101億円となりました。

一方、収入は企業債の増などにより前年度決算額を700万円上回る62億円となりました。



### 補てん財源

資本的収入額が資本的支出額に対し不足する39億円は、繰越工事資金や過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定留保資金などで補てんしました。

平成24年度に企業会計移行後、下水道事業の補てん財源は水道事業と比較して低い水準で推移してきましたが、世代間の負担の平準化を図ることを目的として平成30年度から発行している資本費平準化債により、補てん財源は増加傾向にあります。

## 02 数字で見る上下水道事業

水道事業、下水道事業に関する様々な数値を経営に関する参考情報としてご紹介します。

### 凡例

上下水道区分  
■ 水道 ■ 下水道

水 指標項目  
**指標値** / 傾向  
 関連施策

前年度との比較  
 ↗ 上昇傾向    → 横ばい  
 ↘ 下降傾向

矢印の色  
 赤 望ましくない変動  
 黒 横ばい  
 青 望ましい変動

### 事業概況

<b>水</b> 給水人口 <b>384,658人</b> / ↘ 第2章:P4	<b>水</b> 人口普及率 <b>99.91%</b> / ↗ 第2章:P4
<b>下</b> 処理区域内人口 <b>343,269人</b> / ↘ 第4章:施策2	<b>下</b> 人口普及率 <b>89.16%</b> / ↗ 第4章:施策2

### 環境

<b>水</b> 配水量1m <sup>3</sup> 当たりCO <sub>2</sub> 排出量 <b>115.7g/m<sup>3</sup></b> / ↘ 第2章:P13 第4章:施策9	<b>水</b> 取水量1m <sup>3</sup> 当たり水源保全投資額 <b>0.00608円</b> / ↘ 第2章:P13 第4章:施策9
--	--

### 料金

<b>水</b> 20m <sup>3</sup> /月の水道料金(口径25mm以下) <b>2,684円</b> / → 第4章:施策10	<b>水</b> 1,000m <sup>3</sup> /月の水道料金(口径40mm以上) <b>238,205円</b> / → 第4章:施策10	<b>水</b> 給水人口1人当たり平均断水・濁水時間 <b>1.47時間/人</b> / ↗ 第2章:P12
<b>下</b> 20m <sup>3</sup> の下水道使用料 <b>2,035円</b> / → 第4章:施策10	<b>下</b> 1,000m <sup>3</sup> の下水道使用料 <b>226,600円</b> / → 第4章:施策10	<b>下</b> 内水氾濫の発生状況(床下・床上浸水戸数) <b>8件</b> / ↗ 第4章:施策6 第2章:P8

### 財務

<b>水</b> 有収率 <b>97.92%</b> / ↗ 第4章:施策8	<b>水</b> 経常収支比率 <b>109.24%</b> / ↗ 第4章:施策10	<b>水</b> 給水原価 <b>149.74円</b> / ↗ 第4章:施策10
<b>下</b> 有収率 <b>89.11%</b> / ↘ 第4章:施策8	<b>下</b> 経費回収率 <b>102.21%</b> / ↘ 第4章:施策10	<b>下</b> 汚水処理原価 <b>114.34円</b> / ↗ 第4章:施策10

### 職員

<b>水</b> 事務職員数 <b>16人</b> / → 第4章:施策11	<b>水</b> 技術職員数 <b>40人</b> / ↗ 第4章:施策11	<b>水</b> 技能業務職員数 <b>43人</b> / ↘ 第4章:施策11
<b>下</b> 事務職員数 <b>19人</b> / ↗ 第4章:施策11	<b>下</b> 技術職員数 <b>41人</b> / ↘ 第4章:施策11	<b>下</b> 技能業務職員数 <b>2人</b> / ↗ 第4章:施策11

## 第4章

## 令和3年度の主な取り組み

## 01 施策方針と主な業務活動

## 施策方針 ① 安全・安心な水道水の供給

水道水の安全性を確保し、安心して使用していただける水道水を供給します。



## 主な業務活動 ① 水質試験・クリプト水質検査

安全・安心な水道水を供給するため、検査の場所・項目・回数等を記載した「岡崎市水道水質検査計画」を策定し、計画的に水質検査を実施しています。

令和3年度において、浄水の水質検査結果は良好でした。

## 実績値(アウトプット指標)

試験地点数 115箇所

当年度で定めた水質検査計画による試験地点数

## アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費72,743千円、人員3,445時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

## 主な業務活動 ② 水質改善検討事業

365日24時間体制で浄水場の運転及び監視を行うとともに、水源や水道施設の点検等を実施することで安全な水道水を届けています。

令和3年度において、水源水質事故や浄水処理トラブルによる断水等は発生していません。



## 実績値(アウトプット指標)

定性評価 6点

※上位計画である水安全計画の実施度・作業効率性について評価。3点以下で改善が必要となります。

## アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費145,366千円、人員44,612時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

## 主な業務活動 ③ 給水装置工事申込審査業務

安全な水道水をお届けするためには、浄水場における水質管理だけでなく、給水装置の安全性も確保する必要があり、上下水道局では給水装置工事業者が行う給水装置に関する工事の審査を行っています。

令和3年度において、2,751件の審査業務を行いました。

## 実績値(アウトプット指標)

分担金収入額 23,072,000円

当年度での分担金の申込の合計額

## アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費350千円、人員13,791時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

施策方針 ①  
まとめ

本施策方針の推進にあたり、

事業費 **590,625千円**、人員 **61,991時間/年**を投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1~9点までの点数で定性評価をしています。

## 施策方針 ② 下水道による環境の向上



下水道の汚水施設整備により、公衆衛生の向上と公共用水域の水質安全を図ります。

### 主な業務活動 ① 汚水整備業務

公衆衛生の向上や生活環境の改善、公共用水域の水質安全に起用するため、汚水施設を整備しており、現在は主に市街化調整区域において、家屋の密集・連たん性の高い区域を効率的に整備しています。

令和3年度は、細川町・国正町・坂左右町・針崎町・簀川町・椋山町などで約18haを整備しました。



#### 実績値(アウトプット指標)

事業延長 3,899m

汚水整備工事に関する事業延長

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費429,390千円、人員17,021時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 ② 受益者負担金業務

受益者負担金とは、新たに整備された区域内に土地を所有する方などから建設工事費の一部を負担していただくものです。

令和3年度に整備を行った地域において、整備工事に入る前に受益者負担金などに関する説明会を開催しました。これらの地域では令和4年度に受益者負担金(分担金)を賦課します。

また、令和2年度に整備を行った地域等において、合計74,256,460円の受益者負担金(分担金)を賦課しました。

#### 実績値(アウトプット指標)

調定額 84,851,180円

当年度の受益者負担金に関する調定額

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費3,614千円、人員8,300時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 施策方針 ② まとめ

本施策方針の推進にあたり、  
事業費 **452,637千円**、人員 **41,920時間/年**を  
投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1~9点までの点数で定性評価をしています。

### 施策方針 ③ 水道施設の再構築

今後の事業環境の変化や災害に備えた水道施設の再構築を進めます。



#### 主な業務活動 ① 基幹管路再構築業務

水道基幹管路の統廃合や口径の適正化を図りながら、災害や事故発生時におけるバックアップ機能の強化を進めます。非常時にも被害影響が少なく、早期の復旧が可能となるように基幹管路の再構築を行います。

令和3年度は、以下を実施しました。

- 実施設計業務 L=11,271m
- 配水管布設替工事 L= 2,408m



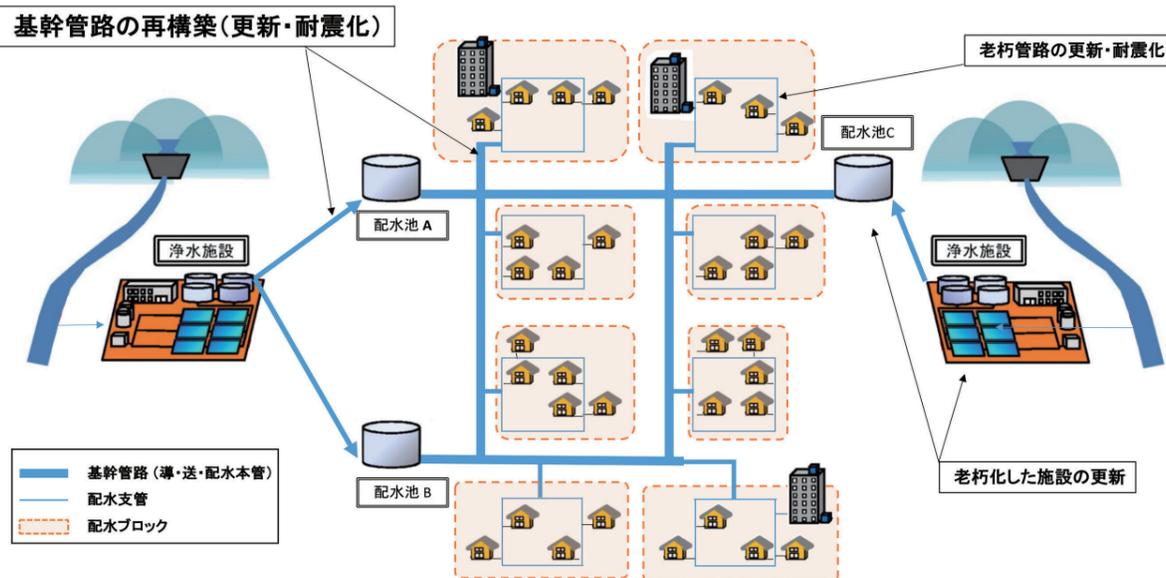
#### 実績値(アウトプット指標)

定性評価 9点

水道関連の計画としての有効性、計画の妥当性から定性的に評価を行います。3点以下で改善が必要となります。

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費76,318千円、人員1,724時間/年を投入して、取り組みを実施しました。



#### 施策方針 ③ まとめ

本施策方針の推進にあたり、  
事業費 **76,318千円**、人員 **1,879時間/年**を  
投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1~9点までの点数で定性評価をしています。

## 施策方針 4 安定した水供給の確保

給水の継続に影響を及ぼす大規模地震・洪水・濁水等の災害及び事故に強い安定した水道水の供給を目指し、対策を推進します。



### 主な業務活動 1 管路耐震化事業 (重要給水施設)

災害時に優先的な給水を必要とする救急病院や広域避難場所へ至る水道管路を耐震化しています。令和3年度は、以下を実施しました。

- 配水管布設工事 L=1,743m  
令和3年度までに、救急病院8箇所、災害対策本部等公共施設2箇所、広域避難場所4箇所及び透析病院2箇所への給水ルートの水道管路の耐震化を完了しています。



#### 実績値(アウトプット指標)

事業延長 2,790m

当年度で実施した重要給水施設路線の耐震化に関わる管工事の施工延長

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費911,070千円、人員3,605時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 2 配水管整備事業 (道路整備、漏水多発)

道路整備と同調して古い水道管を更新したり、漏水の実績が多い水道管の布設替を行っています。

令和3年度は、以下を実施しました。

- 実施設計業務 L= 323m(うち道路整備271m、漏水多発52m)
- 配水管布設替工事 L=6,325m(うち道路整備1,743m、漏水多発4,582m)

#### 実績値(アウトプット指標)

事業延長 5,100m

当年度で実施した道路整備、漏水対策に関わる管工事の施工延長

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

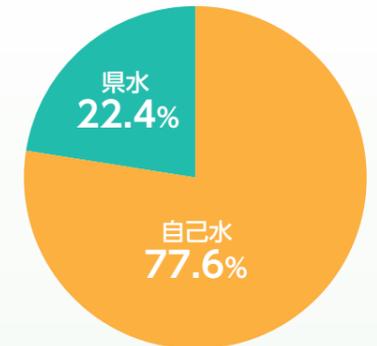
本取り組みには、事業費617,136千円、人員3,701時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

## 主な業務活動 3 県水受水業務

岡崎市では市内で浄水処理した水道水(自己水)の不足を補うとともに、河川等の水質事故や災害などで自己水が不足した場合に備え、愛知県企業庁の豊田浄水場と幸田浄水場で浄水処理された水道水(県水)を購入し、市内へ配水しています。

令和3年度は、9,299,174m<sup>3</sup>(配水量全体の22.4%)の県水を購入し、市内に配水しました。

■ 配水量の割合



#### 実績値(アウトプット指標)

定性評価 9点

作業効率性、外部との調整から定性的について評価を行います。3点以下で改善が必要となります。

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費832,538千円、人員0時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 施策方針 4 まとめ

本施策方針の推進にあたり、

事業費 **2,863,789千円**、人員 **13,366時間/年**を投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1~9点までの点数で定性評価をしています。

## 施策方針 5 地震対策の推進

地震に強い下水道を目指し、地震対策を推進します。



### 主な業務活動 1 管渠耐震業務

耐震性が乏しい管路の改築や地震動に伴う地盤液状化による人孔浮上抑制などの対策を実施することで、地震時における下水道の流下機能確保や緊急車両等の通行機能確保を図っています。

令和3年度は、以下を実施しました。

- 管渠耐震診断 1,741m
- 耐震設計(人孔浮上対策) 17箇所
- 人孔浮上対策工事 7箇所
- 管渠改築工事 307m



#### 実績値(アウトプット指標)

事業延長 830m

当年度で工事した汚水管渠耐震化の業務延長

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費27,278千円、人員6,398時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 2 災害対策業務 ※災害対応トイレ築造

災害対策基本法及び同法に基づく地域防災計画に位置付けた施設に、下水道災害対応トイレシステムを築造し減災対策を図っています。

令和3年度は、避難所に指定されている山中小学校に6基の下水道災害対応トイレを設置し、岡崎市内の下水道災害対応トイレは、令和3年度末時点で59施設に計554基設置されています。



#### 実績値(アウトプット指標)

築造基数 6基

当年度に築造した災害対応トイレの基数

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費7,970千円、人員370時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 施策方針 5 まとめ

本施策方針の推進にあたり、  
事業費 **35,248千円**、人員 **7,171時間/年**を  
投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1~9点までの点数で定性評価をしています。

## 施策方針 ⑥ 浸水対策の推進

岡崎市総合雨水対策計画に基づく下水道整備を計画的に行い、浸水対策を推進します。



### 主な業務活動 ① 雨水整備業務

岡崎市総合雨水対策計画に基づき雨水を速やかに河川へ排水するため、雨水管渠の増設により浸水被害の軽減・最小化を図っています。

令和3年度は、六名雨水ポンプ場事業として放流渠及び堤外水路、雨水幹線の整備として八帖北幹線・針崎幹線・大平北幹線の整備を進めました。



#### 実績値(アウトプット指標)

事業延長 986m

当年度で工事した雨水管渠の業務延長

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費228,898千円、人員4,820時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 ② 雨水ポンプ場建設業務

岡崎市総合雨水対策計画に基づき雨水を速やかに河川へ排水するため、雨水ポンプ場の建設により浸水被害の軽減・最小化を図っています。

令和3年度は、六名雨水ポンプ場の建設工事を実施しました。六名雨水ポンプ場は、引き続き工事を進め、令和5年4月に供用開始を予定しています。



#### 実績値(アウトプット指標)

事業箇所 1箇所

当年度に実施した雨水ポンプ築造の事業箇所数

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費396,194千円、人員1,588時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 ③ ポンプ施設耐水業務

気候変動の影響と考えられる豪雨により、下水道施設そのものが河川氾濫や内水氾濫に見舞われ、設備の水没等により機能停止するなどの被害が生じた事例が他の事業体で発生しており、全国的に下水道施設の浸水対策が進められています。

岡崎市では令和3年度に耐水化計画を策定し、令和4年度以降、この計画に基づき対策を進めていきます。



#### 実績値(アウトプット指標)

事業箇所 0箇所

当年度で実施したポンプ施設等の耐水化に関する業務箇所数

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費12,617千円、人員562時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

#### 施策方針⑥ まとめ

本施策方針の推進にあたり、  
事業費 **663,614千円**、人員 **7,609時間/年**を  
投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1~9点までの点数で定性評価をしています。

## 施策方針 7 危機管理体制の構築

災害、テロ及びその他の事故や感染症の流行のような非常事態が発生しても、迅速かつ適切に対応することができる危機管理体制を構築します。



### 主な業務活動 1 BCP計画の再整理

上下水道施設が市民生活にとって重要なライフラインの一つであり、災害時にもその機能を維持または早期回復することが必要不可欠であることを踏まえ、従来それぞれの課が所管していた危機管理マニュアルを基に、災害時に必要となるリソース(人員、資機材)を検討し、BCP(業務継続計画)を策定しました。

#### 実績値(アウトプット指標)

定性評価 6点

業務的的確性、実効性について評価、3点以下で改善が必要となります。

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費11,950千円、人員301時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 2 営業設備費 ※車両・工具の購入

災害対応や水道管路の事故などに備えて、速やかな応急給水や復旧を図るために資機材を確保しています。

令和3年度は、以下などを購入しました。

- 災害等の非常時に配水池等から衛生的に飲料水を取水したり、運搬用タンクから避難所備え付けの給水タンクに注水するためのポンプ4台(サービス課)
- 漏水を速やかに発見するための漏水探知機(水道工事課)



#### 実績値(アウトプット指標)

定性評価 9点

妥当性・有効性について評価、3点以下で改善が必要となります。

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費3,402千円、人員258時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 施策方針 7 まとめ

本施策方針の推進にあたり、  
事業費 **16,783千円**、人員 **1,326時間/年**を投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1~9点までの点数で定性評価をしています。

## 施策方針 ⑧ 適切な資産管理

上下水道の資産(管路・浄水場・下水道ポンプ場等)を適切に維持管理し、健全な施設機能を維持します。



### <水道事業>

#### 主な業務活動 ① 施設改修事業

水道水の安定供給を図るために浄水場や配水場、ポンプ場の設備等の改修を行っています。令和3年度は、以下の改修工事を行いました。

- 仁木浄水場排水処理施設機器整備工事
- 大法川浄水場ほか1施設膜ろ過整備工事 ほか28件

##### 実績値(アウトプット指標)

定性評価 6点

作業効率性、業者との調整の観点から定性的について評価を行います。3点以下で改善が必要となります。

##### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費166,207千円、人員6,092時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

#### 主な業務活動 ② 水道事故対応業務(漏水・路面陥没・濁り・凍結等)

水道管路の漏水、濁り等の事故の復旧作業を職員が行うことで、迅速かつ安全・安心な水供給の復旧に努めています。

令和3年度は、以下のような事故発生件数でした。

- 即時緊急修繕件数 348件
- その他修繕対応件数 571件



##### 実績値(アウトプット指標)

対応件数 740件

当年度の水道事故対応の件数

##### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費42,735千円、人員37,963時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

## 主な業務活動 ③ 老朽管更新事業

老朽化し、事故発生リスクの高い水道管を優先的に布設替しています。

令和3年度は、以下を実施しました。

- 実施設計業務 L=13,532m
- 配水管布設替工事 L= 1,812m

##### 実績値(アウトプット指標)

事業延長 1,812m

当年度で行った老朽化に伴う管布設替工事の延長

##### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費224,542千円、人員781時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 施策方針 ⑧ 水道事業 まとめ

本施策方針の推進にあたり、

事業費 **1,152,299千円**、人員 **53,907時間/年**を投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1~9点までの点数で定性評価をしています。

<下水道事業>

主な業務活動 ① 緊急修繕業務 (管渠破損・閉塞等)

岡崎市では、下水道における管渠の破損や閉塞等への対応作業を職員と事業者が連携して行うことで、迅速かつ安全な復旧に努めています。

令和3年度は、以下のような事故対応を行いました。

- 本管及び取付管の詰まり対応
- 下水道管の取付管の破損に伴う陥没対応
- 大雨時の人孔蓋飛散・浮上対応

実績値(アウトプット指標)

修繕件数 13件

当年度で実施した修繕件数

アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費77,609千円、人員13,380時間/年を投入して、取り組みを実施しました。



主な業務活動 ② ポンプ場修繕業務

ポンプ場の円滑な運転管理のために、老朽化した機器を修繕し、機能維持を図っています。

令和3年度は、主に以下の機器の修繕工事を行いました。

- 八帖雨水ポンプ場ほか2施設機械設備(エンジン)修繕工事(吹矢、美合汚水中継ポンプ場)
- 美合汚水中継ポンプ場機械設備(1号ポンプ)修繕工事
- 砂川雨水ポンプ場電気設備(発電機)修繕工事
- 占部取水施設外部改修工事



実績値(アウトプット指標)

修繕件数 14件

ポンプ場における修繕件数

アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費57,100千円、人員2,268時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

主な業務活動 ③ 管渠改築業務

下水道管渠の流下機能を確保するとともに、道路陥没等の事故発生を未然に防止するために、老朽化した管渠の改築工事を岡崎市下水道ストックマネジメント計画に基づいて行っています。

令和3年度は、以下を行いました。

- 管渠点検調査 L=14,294m
- 管渠改築更新実施設計 L=13,364m
- 管渠改築工事 L= 8,899m
- スtockマネジメント計画更新(基本計画)

実績値(アウトプット指標)

業務延長 8,899m

当年度で行った管渠改築の業務延長

アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費843,398千円、人員826時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

施策方針 ③  
下水道事業  
まとめ

本施策方針の推進にあたり、  
事業費 **1,793,203千円**、人員 **24,923時間/年**を  
投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1~9点までの点数で定性評価をしています。

## 施策方針 ⑨ 企業価値の向上

良好なサービスの提供や社会貢献活動などにより、公営企業としての価値の向上を図ります。



### 主な業務活動 ① 浄水場公開業務

男川浄水場や仁木浄水場では、生活に不可欠な水道水への理解を深めていただくために、一般市民向けの公開や小学校などの社会見学の受け入れを行っています。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策として浄水場の公開を中止しましたが、ご家庭からでも浄水場について知っていただくために浄水場の紹介動画をホームページ上で公開しました。



#### 実績値(アウトプット指標)

参加人数 0人

当年度で浄水場公開に参加した人数

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費0円、人員129時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 ② 水源保全事業

「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」として、水に関わる12企業等と協定を締結し、公民連携して水源保全活動を実施しています。

令和3年度は活動費として、プロジェクトメンバーより44万円の寄付をいただきました。活動については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い小規模にとどめ、今後の森林での活動における安全対策について、メンバーでの実地研修を行いました。



#### 実績値(アウトプット指標)

参加人数 42人

水源保全に関するイベントへの参加者数

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費423千円、人員247時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 ③ 排水設備・除害施設の設置に関する受付業務・工事申請の審査、検査業務

排水設備は個人・事業者等の設置する下水を下水道へ遅滞なく適切に排除するための重要な施設です。排水設備や除害施設が適切に設置され、汚水・雨水が誤接続なく排除基準を守って速やかに排除されるよう、工事前の受付・審査及び工事完了後の検査を行っています。

令和3年度は、2,149件の工事申請があり、審査・検査を行いました。



#### 実績値(アウトプット指標)

受付件数 2,149件

当年度で受付した件数

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費0円、人員8,540時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

#### 施策方針 ⑨ まとめ

本施策方針の推進にあたり、  
事業費 **390,617千円**、人員 **5,951時間/年**を投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1～9点までの点数で定性評価をしています。

## 施策方針 10 健全な事業経営

持続的な上下水道を支える安定的な事業経営を実施します。



### 主な業務活動 1 アセットマネジメント策定支援業務

岡崎市上下水道事業アセットマネジメント基本戦略に基づき、リスク・コスト・パフォーマンスのバランスを最適化するための取り組みを行っています。

令和3年度は、以下などに取り組みました。

- 上下水道局職員がアセットマネジメントを実行するための課題の認識共有や意見交換するためのワークショップの開催
- スマートメーターの試行
- 行政評価制度の構築(サービスレベルマネジメントシステム構築)
- 業務改善のためのICTツールの導入



#### 実績値(アウトプット指標)

定性評価 9点

計画の推計値などの乖離度、計画の実効性の観点から定性的について評価を行います。3点以下で改善が必要となります。

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費26,424千円、人員3,837時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 2 審議会の運営

上下水道事業の妥当性・透明性を高めるとともに、第三者の視点に立った公正な事業運営を推進するために、岡崎市水道事業及び下水道事業審議会を設置しています。

令和3年度は、以下のとおり開催しました。

- 令和3年 7月21日 諮問事項「適正な下水道料金のあり方について」の審議③  
諮問事項「適正な農業集落排水処理施設使用料のあり方について」の審議②
- 令和3年 8月25日 答申書「適正な下水道料金のあり方について」(案)の審議  
答申書「適正な農業集落排水処理施設使用料のあり方について」(案)の審議
- 令和3年10月20日 水道ビジョンの進捗状況について  
令和元年度水道事業及び下水道事業決算(下水道事業経営ビジョン)について
- 令和4年 1月26日 上下水道ビジョンに関する取組事項について

#### 実績値(アウトプット指標)

開催回数 4回

当年度で開催した水道事業審議会の回数

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費315千円、人員3,314時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 3 企業債事務(元金償還金・利息償還金・借入金・利息・元金)

企業債とは、水道管や下水道管、浄水場や汚水ポンプ場など水道・下水道事業で使われる施設の建設や更新等を行うための資金とするために、国などから借り入れるお金のことです。

水道・下水道施設は次世代にわたり活用される資産であり、企業債を借り入れ、それに伴い発生する元金の返済を次世代にも負担してもらうことにより、現世代の負担を分配し、世代間負担の公平性を確保することにつながります。

令和3年度の企業債の借入、償還、並びに年度末時点における未償還残高は、右記のとおりです。

区分	借入高(R3)	償還高(R3)	年度末未償還残高
水道事業	652,000,000	1,393,156,211	15,451,127,981
下水道事業	3,960,600,000	4,111,737,626	64,279,083,752

(単位:円)

#### 実績値(アウトプット指標)

金額 79,730,211,733円

企業債及び一時借入金の金額

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費6,708,747千円、人員527時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

#### 施策方針 10 まとめ

本施策方針の推進にあたり、

事業費 **9,137,134千円**、人員 **36,602時間/年**を投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1~9点までの点数で定性評価をしています。

## 施策方針 11 組織の基盤強化



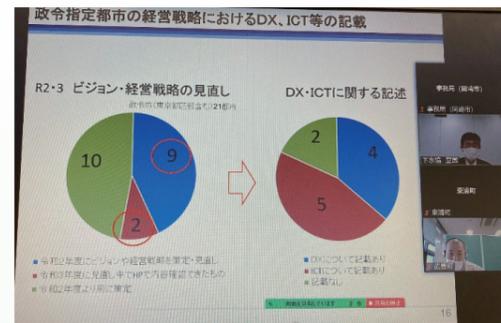
引き続き職員による直営体制を堅持するとともに、職員の能力を向上させ、さまざまな施策を推進するための組織基盤を強化します。

### 主な業務活動 1 外部研修関係事務

岡崎市上下水道局人材育成方針に基づき、上下水道事業の職員として必要な知識や技術の習得などを進めており、事業運営に必要な資格の取得やスキルアップのために外部研修の受講を促進しています。

令和3年度は、計39件の外部研修に参加しました。主な外部研修等の実績は以下のとおりです。

- 業務活動を実施するのに必要な講習等 27件
- 職員のスキルアップに関する研修等 12件



新型コロナウイルスの影響により研修等の受講機会が減る中、オンライン開催の研修への積極的な参加に努めています。

#### 実績値(アウトプット指標)

受講件数 39件

当年度の外部研修の受講件数

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費253千円、人員4,151時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 主な業務活動 2 業務プロセスの策定・監理業務

人口減少に伴い職員数は減少傾向にあり、従来通りの業務のやり方を続けていけば、上下水道施設のライフラインとしての機能を維持することが困難になることが想定されます。そこで、上下水道局では今までの業務のやり方を変える業務改革に取り組んでいます。

令和3年度は、コニカミノルタ株式会社と連携協定を締結し、上下水道局の全業務対象の業務量調査を実施しました。そして、業務量調査の結果をもとに改善効果が見込まれる業務を選定し、当該業務の業務プロセス(業務手順書)を作成し、具体的な改善計画を策定しました。

#### 実績値(アウトプット指標)

プロセスの改善件数 56件

当年度で実施した業務プロセスの改善件数

#### アセットインフォメーション(資産投入状況)

本取り組みには、事業費0円、人員493時間/年を投入して、取り組みを実施しました。

### 施策方針 11 まとめ

本施策方針の推進にあたり、  
事業費 **253千円**、人員 **4,724時間/年**を  
投入して、取り組みを実施しました。

※実績値(アウトプット指標)は、次年度以降、前年度との比較で表示します。2022年度版は、2021年度の実績値のみ表示しています。実績値を定量的に評価できない業務では、1～9点までの点数で定性評価をしています。

## 02 SDGsとの関わり

「SDGs」は、2015年の国連サミットにおいて全加盟国が合意した、「『誰一人取り残さない』持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標」です。環境・差別・貧困・人権等について17の目標が掲げられており、世界全体で取り組む計画・目標です。

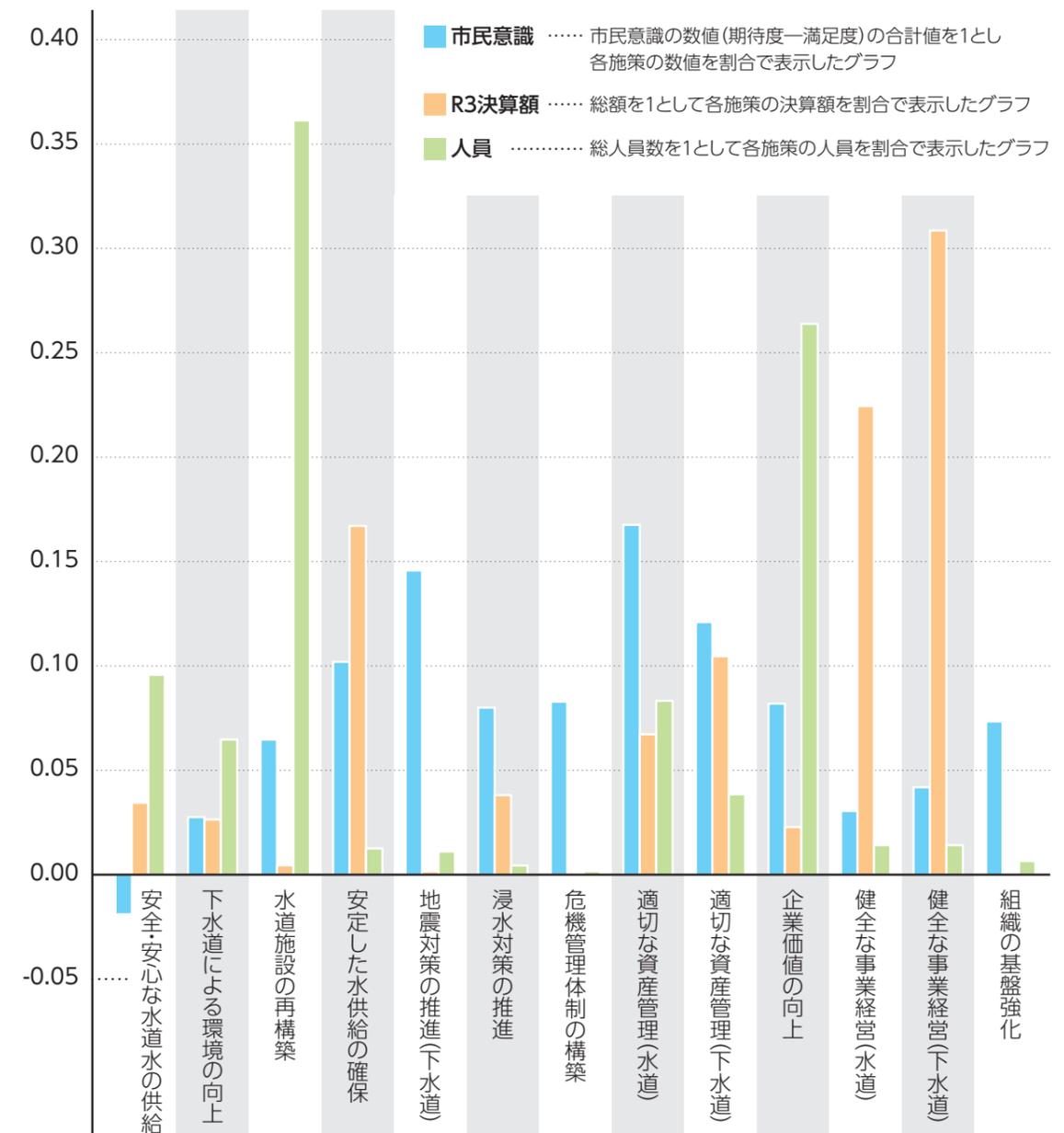
岡崎市が行う上下水道事業にて、関連するSDGsの目標は以下のとおりです。

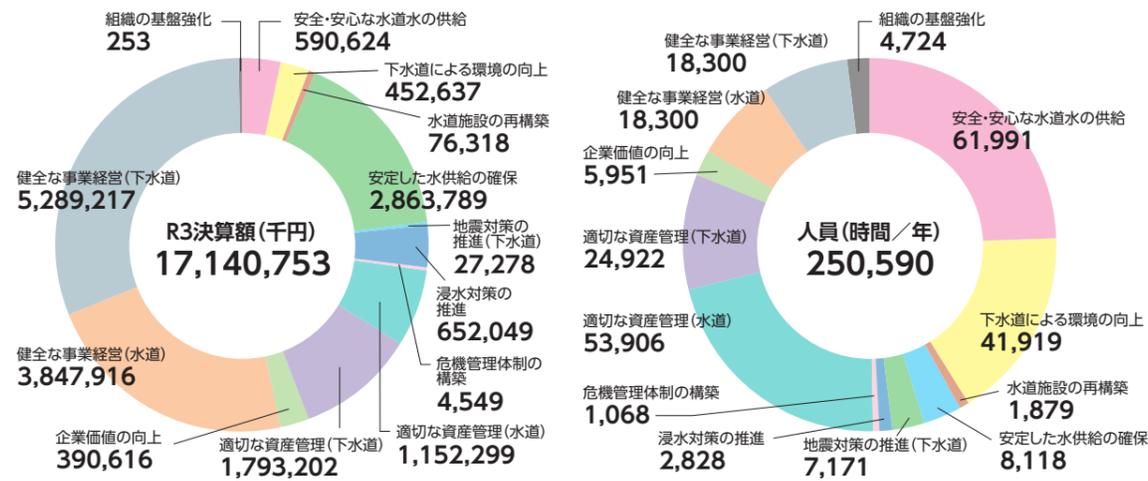
SDGsの目標	
 <p><b>6</b> 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p><b>目標6「安全な水とトイレを世界中に」</b></p> <p>すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。</p>
 <p><b>7</b> エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p><b>目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」</b></p> <p>すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。</p>
 <p><b>9</b> 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p><b>目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」</b></p> <p>強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。</p>
 <p><b>11</b> 住み続けられるまちづくりを</p>	<p><b>目標11「住み続けられるまちづくりを」</b></p> <p>包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。</p>
 <p><b>13</b> 気候変動に具体的な対策を</p>	<p><b>目標13「気候変動に具体的な対策を」</b></p> <p>気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。</p>
 <p><b>15</b> 陸の豊かさも守ろう</p>	<p><b>目標15「陸の豊かさも守ろう」</b></p> <p>陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。</p>

## 03 ギャップ分析

上下水道事業サービスレベル一覧表(決算額・人員)の表(P72~P79)のうち、施策方針毎の令和3年度決算額と人員を市民意識調査の結果と一つのグラフに表現し、市民意識と上下水道事業における資源の投入状況を比較しました。上下水道局では、このような比較分析を予算編成等に役立て、アセットマネジメントに取り組んでいます。

この表の基礎となる施策方針毎の令和3年度決算額、人員及び市民意識調査の結果については、右のページをご覧ください。





### 市民意識調査の結果

市民の方に「おかざきeモニター」として事前に登録いただき、インターネットと電子メールを利用して市からのアンケートにお答えいただくeモニター制度を利用して、令和4年1月に「岡崎市上下水道事業の施策に関するアンケート」を実施し、134人の方から回答をいただきました。

以下の表は、その結果をまとめたものです。

施策方針	期待度	満足度	期待度-満足度
1 安全・安心な水道水の供給	1.321	1.470	-0.149
2 下水道による環境の向上	1.306	1.090	0.216
3 水道施設の再構築	1.276	0.769	0.507
4 安定した水供給の確保	1.261	0.463	0.799
5 地震対策の推進(下水道)	1.216	0.075	1.142
6 浸水対策の推進	1.216	0.590	0.627
7 危機管理体制の構築	1.194	0.545	0.649
8 適切な資産管理(水道)	1.194	-0.119	1.313
9 適切な資産管理(下水道)	1.157	0.209	0.948
10 企業価値の向上	1.067	0.425	0.642
11 健全な事業経営(水道)	1.261	1.022	0.239
12 健全な事業経営(下水道)	1.201	0.873	0.328
13 組織の基盤強化	1.142	0.567	0.575

期待度・満足度は-2.5から2.5までの値をとり、数値が大きいほど期待度・満足度が高いことを表します。理想と現実のギャップを明確化するために、期待度から満足度を差し引いた値を算出し、前ページのギャップ分析表に使用しています。